シリンダー・サムターン 取付説明書

改-1	取扱番号	MI-1404
	838RC931	

■ 梱包明細（プッシュプル・レバーハンドル共通）

※取り付け前に必ず梱包内容をご覧ください。

■ シリンダーセット

名　称	入数	詳　細
シリンダー	2個	シルバー／ブラック
サムターン	1個	シルバー／ブラウン
※ 脱落サムターン	1個	シルバー／ブラウン（サムターンツマミ／2個）
主錠ガードケース	1個	――
補助錠ケース	1個	――
鍵セット	1セット	子鍵／5本（内1本は握り部樹脂製） 工事用キー（コンストラクションキー）／3本
取付小ネジセット〔WXタイプ〕ウェーブキー	1袋	M4×18皿小ネジ（ケース用）／4本 M5×45トラス小ネジ（サムターン用）／2本 M5×50トラス小ネジ（脱落サムターン用）／2本
取付小ネジセット〔KABAタイプ〕高性能ディンプルシリンダー錠	注1）2袋	M4×18皿小ネジ（ケース用）／4本 M3×6ナベ小ネジ（防犯サムターン用）／2本 ドア厚40用（M5×45トラス小ネジ（サムターン用）／2本 M5×35皿小ネジ（防犯サムターン用）／2本） ドア厚50用（M5×55トラス小ネジ（サムターン用）／2本 M5×45皿小ネジ（防犯サムターン用）／2本）

※高性能ディンプルシリンダーの場合は、防犯サムターンになります。（サムターンキー／2本）

注1）ケース用・サムターン用と防犯サムターン用で袋が分かれています。

■ 主錠・補助錠取付方法（プッシュプル・レバーハンドル共通）

①主錠ガードケース（上側）を取付小ネジ（M4×18）にて取り付けてください。

②補助錠ケース（下側）を取付小ネジ（M4×18）にて取り付けてください。

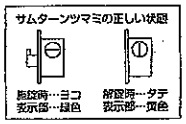
③封印シール付シリンダーを上側のケースに取り付けてください。
このとき、シリンダーに"上面"とかいてある側が上側にくるように取り付けて、室内側よりサムターンと共に取付小ネジにて取り付けてください。
このとき、サムターン取付方向は縦丸表示を上側にし、サムターンツマミは解錠時タテ向きとなるように取り付けてください。

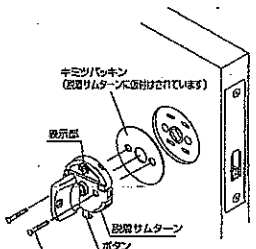
④コンストラクション装置付シリンダーを下側のケースに取り付けてください。
このとき、シリンダーに"上面"とかいてある側が上側にくるように取り付けて、室内側より脱落サムターンを下記"脱落サムターン取付方法"に従って取り付けてください。

※把手、レバーハンドルの取り付けについては「ハンドルセット取付説明書」を参照してください。

脱落サムターン取付方法（A部詳細図）〔WXタイプ〕

サムターンはボタンを下にして取り付けてください。



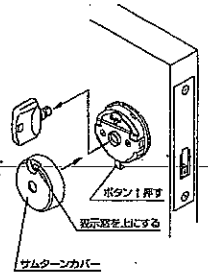


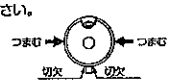
取付小ネジ（M5×50）を締め付け後、錠の作動を確認してください。確認後、サムターンの下側のボタンを押し、サムターンツマミを外してサムターンカバーをはめ込んでください。

サムターンカバーは表示窓を上にしてまっすぐはめ込んでください。

最後にサムターンツマミを差し込んでください。
サムターンツマミを差し込むときは必ず下側のボタンを押したまま差し込んでください。

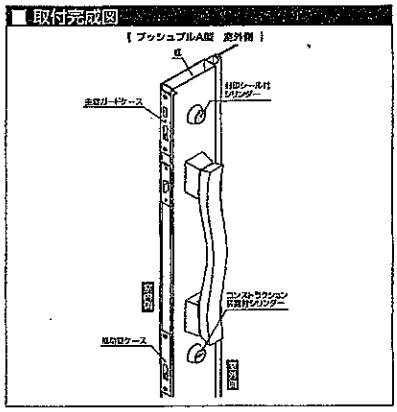
※サムターンカバーを外す場合
サムターンツマミを外してサムターンカバーの両側（扉面に近い部分）をつまみ、カバーをたわませるようにして外してください。
それでも外れない場合はサムターンカバー下側（ボタンの部）の切欠にマイナスドライバーを入れサムターンカバーを浮かせそのままはぎ取るようにして取り外してください。



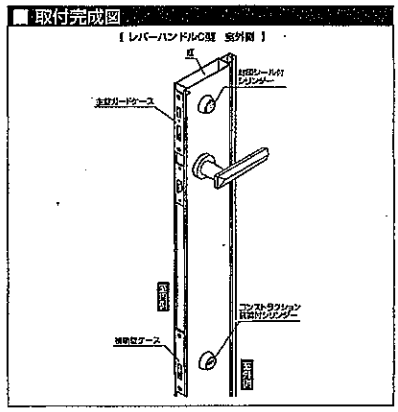


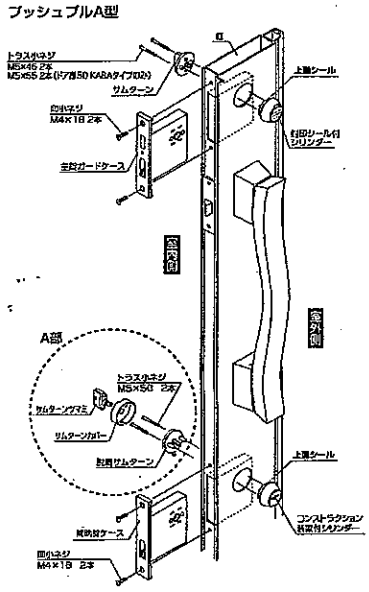
※脱落サムターンに付いている取扱説明書（タグ）は必ず施主様にお渡しください。

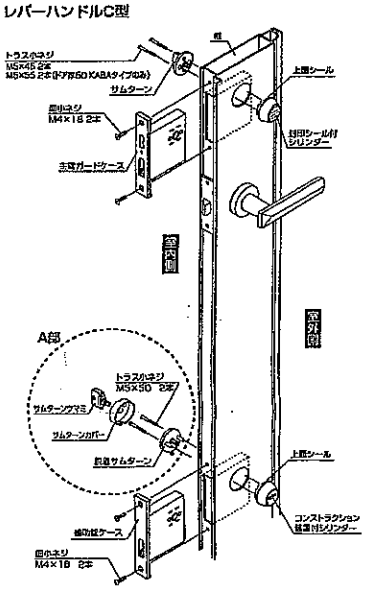
■ 取付完成図



■ 取付完成図





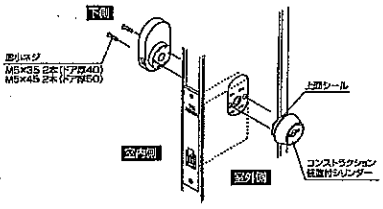


防犯サムターン取付方法（A部詳細図）〔KABAタイプ〕

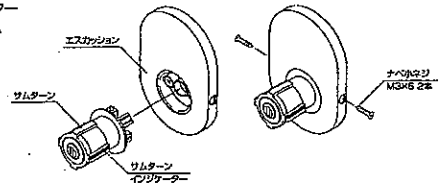
シリンダー、防犯サムターンを取り付けてください。

①コンストラクション装置付シリンダーを下側のケースに取り付けてください。

②室内側からサムターンのエスカッションを取付皿小ネジで固定してください。

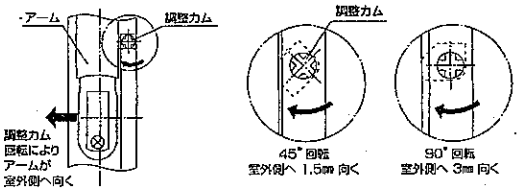


③ケースを解錠状態にして、サムターンインジケーターを横にし、エスカッションにサムターンを差し込み、付属の取付小ネジ（M3×6）でエスカッション両サイドから固定してください。



ガード錠用ストライク調整方法

建て付けが悪い、扉が下がってきた等の理由で、ガードボルトがアームの穴に入らない場合は、受けの本体に内蔵されている調整カムをドライバーで回すだけで簡単に調整可能です。扉の状態に合せて選択してください。



〔注意〕調整カムを初めの位置から無理やり反時計回りへ回したり、初めの位置から90°以上無理やり回さないでください。調整カムが壊れ、調整ができなくなる場合があります。

コンストラクション装置について

コンストラクション装置付シリンダーは、施工の際、工事専用のコンストラクションキーをご使用ください。
施工後、施主様専用のキーを使用するとコンストラクション装置が解除され、以後はコンストラクションキーでは開閉できなくなります。
封印シール付シリンダーは、コンストラクション装置が組み込まれていないため封印シールが貼ってあります。
施工後、シールをはがし作動を確認した後、施主様にお引き渡しください。